

ミニ
企画展

皆野の俳句と戦後編

俳誌『雁坂』と俳人たち

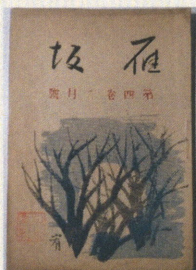
1945



1946



1949



1951



1953



1955



1956



俳誌『雁坂』の表紙変化。当初は秩父の植物や動物が中心だったが、後に風景が主となり、昭和29年以降には横瀬の人形芝居の頭(清水武甲氏撮影)が表紙を飾った。『雁坂』タイトルの文字の向きにも注目。

期間 令和6年11月12日(火)～24日(日)

※ 17日(日)は講演会のための開催となります(要申込)

時間 10時～16時

場所 壺春堂 ※ 金子医院隣 大字皆野 1168 番地

入場無料

主催 皆野町教育委員会

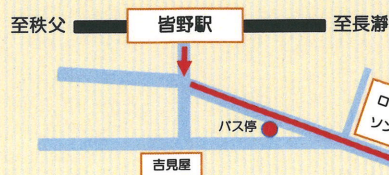
TEL 0494-62-4563

後援 兜太・産土の会

※企画展の内容はデジタルミュージアムにも掲載します。
<https://www.town.minano.saitama.jp/haikunomachi/exhibition/>

会場地図

* 秩父鉄道「皆野駅」下車
徒歩7分

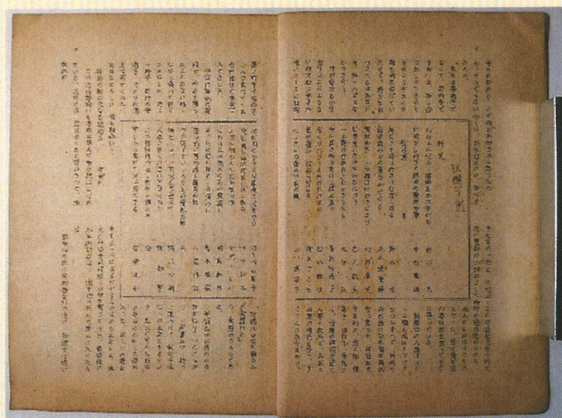


生業、自我、社会。一冊の俳誌に込められた戦後俳句史。

今回の展示では、敗戦の年に創刊され、昭和31年まで刊行された俳誌『雁坂』を中心に、皆野の戦後俳句の歩みをたどります。

同誌には秩父郡内外から多くの俳人が参加しましたが、「派閥も結社も超えた作句道場」を表明していたこともあり、同人や会員は『馬酔木』や『寒雷』、『風』、『鶴』などさまざまな中央俳誌に所属していました。また金子兜太をはじめとする中央俳人も客稿や作品を寄せ、『雁坂』は多様な作品と評論で賑わいを見せました。

本展では『雁坂』10年の歩みを3期に分け、中央俳壇の動向とともに同誌の動きや俳人、そして作品を紹介します。



水原秋櫻子を迎えた皇鈴山吟行会の記録
(『雁坂』昭和26年10月号)



伊昔紅(前列右から3人目)と『雁坂』一行
(昭和26年9月23日 於皇鈴山)

記念講演会

演題 「社会をみつめた俳句」

講師 田中亜美氏

1970年生まれ。98年より金子兜太氏に師事。『海原』同人。現代俳句協会会員。日本文藝家協会会員。

日時 令和6年11月17日(日) 14時00分～

会場 壺春堂

定員 10名(定員超の場合抽選)

申込 令和6年11月8日(金)まで Eメールまたは電話で。

● Eメールの場合

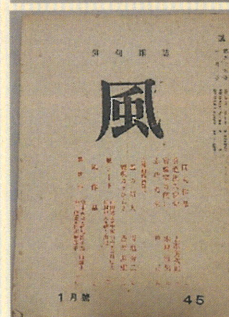
haiku.minano@gmail.com

※ 題名を「講演会申込」とし、本文に①参加者氏名(最大2名まで)、
②電話番号を明記してください。

● 電話の場合

0494-62-4563

皆野町教育委員会事務局 社会教育担当 まで



『雁坂』と同時期の
中央俳誌